

政策	1 グローバルロジスティクスの港	施策推進 責任者	企画調整室長
基本施策	01 国際・国内海上輸送機能の強化		
個別施策	01 次世代高規格コンテナターミナルを形成する		

1. PLAN(目的・内容)

目的	サービスの対象者(誰のために)	船社、港運、ターミナルオペレーター、荷主								
	サービスの対象物(何を)	飛島ふ頭南側コンテナターミナル								
内容	意図(どういう状態にしたいのか)	コスト・サービス水準が向上し、基幹航路(北米・欧州航路)を中心とした十分な活用がされる								
	飛島ふ頭南側コンテナターミナルは、水深16mの耐震強化岸壁を備え、ITを活用した自動化荷役を実現するなど次世代高規格コンテナターミナルとなっています。運用面においては、コスト・サービス水準を向上させて国際競争力のあるコンテナターミナルを形成し、基幹航路の維持拡充を図っていきます。									
目標	飛島ふ頭南側コンテナターミナルの整備を推進し、3バースでの外貨コンテナ取扱個数100万TEUを目指します。	目標達成に影響する外的要因等								
		世界の景気動向による貨物量の減少								
成果指標	実績等	年	平成20	平成21	平成22	平成23	平成24	平成25	目標 平成26	指標の説明(式)
飛島ふ頭南側コンテナターミナル(計画3バース)の外貨コンテナ取扱個数	実績	万TEU	29.5	32.0	44.5	49.2	48.2	47.0	100	伊勢湾スーパー中樞港湾育成プログラムに基づく目標値を引き続き指標とします。
	達成率	%	29.5	32.0	44.5	49.2	48.2	47.0		
飛島ふ頭南側コンテナターミナル(TS1・TS2)の寄港航路数(2バース体制を基に設定)	実績	航路	7 (7)	8 (7)	10 (7)	8 (4)	8 (4)	8 (4)	10 (10)	括弧内は「基幹航路」数実績は、年度末での航路数です。
	達成率	%	70 (70)	80 (70)	100 (70)	80 (40)	80 (40)	80 (40)		

2. DO(個別施策を構成する各事務事業の取組内容と今後の方向性)

重点化	担当課名	事務事業名(コード)	事務事業の概要	主な活動・成果指標	平成20年度～平成25年度						事業費の合計	目標値(年度)	平成25年度実施事業に基づく評価結果					
					実績	実績	実績	実績	実績	実績見込み			平成25年度までの状況※1	平成26年度以降の取組の方向性			備考(判断の理由等)	
					上段: 指標達成状況									下段: 事業費(千円・人件費込)	事務事業※2	成果※3		コスト※4
	(企画調整室)事業担当	飛島ふ頭南側コンテナターミナル第2バース(岸壁)整備事業(個01事04)	整備主体である国土交通省との予算及び工程管理に関する協議を行います。規模: 延長400m、水深-16m	事業進捗率(%)	100							-	100(H20)				完了	
	(企画調整室)事業担当	飛島ふ頭南側コンテナターミナル整備事業(個01事06)	整備主体である国土交通省との予算及び工程管理に関する協議を行います。規模: 延長400m、水深-16m	事業進捗率(%)	82.8	83.6	83.6	83.7	83.8	83.8	134,826	100累計(H26)	遅れ	継続	➡	➡	コンテナ貨物の堅調な伸びを注視しつつ、引き続き、関係者調整を進めていく必要があるため。	
	(企画調整室)港湾運営企画担当	飛島ふ頭南側コンテナターミナルの支援(個01事07)	飛島ふ頭南側コンテナターミナルのターミナルオペレーターである飛島コンテナ埠頭(株)に対する岸壁の直接貸付及び荷さばき施設整備にかかる無利子貸付金等についての調整を、国や飛島コンテナ埠頭(株)等と行います。	無利子貸付執行率(%)	86.7	87.5	92.1	97.4	100.0		2,926,545	100累計(H24)	完了				目標を達成したため。	
				施策コスト(事業費合計)	2,276,780	102,496	282,607	311,034	88,016	438	3,061,371							

注) 事業費は総事業費から本組合負担分を抽出して計上しています。  
注) 目標値欄の「(継続)」は完了年度を定めず行う事業です。この場合の目標値及び目標年度は、原則として平成25年度を中間目標として設定しています。

※1	記入	内容	※2	記入	内容
完了	完了	前年度以前に完了した事業	継続	完了	施策の成果向上・維持のため、事務事業を継続することが妥当
順調	順調	80%以上の進捗度合	完了	完了	目的を達成したため、事務事業を完了することが妥当
やや遅れ	遅れ	60%以上の進捗度合	延伸	延伸	状況を勘案し、目標年度を先送りするものが妥当
遅れ	遅れ	60%未満の進捗度合	統合	統合	他の事業とまとめ、一体的に評価することが妥当
			休廃止	休廃止	終期を設定し事務事業を廃止または休止することが妥当

「継続」、「統合」、「延伸」の事務事業のみ※3、※4を記入

※3	記入	内容
拡大	拡大	何らかの改善策の実施により成果の拡大を必要とするもの
維持	維持	従来どおり進めていくもの
縮小	縮小	一定の成果を達成、必要性が薄れているなどの理由で成果を縮小するもの

※4	記入	内容
拡大	拡大	成果の拡大(または維持)のためにコストの拡大を必要とするもの
維持	維持	従来どおり進めていくもの
縮小	縮小	一定の成果を達成、必要性が薄れているなどの理由でコスト縮減を図るもの

4. ACTION(個別施策全体の今後の取組の方向性)

次期政策体系への方向性	「次期政策体系への方向性」を判断した理由(本組合財政収支への影響の考察を含む)	
成果※3	コスト※4	・現政策体系のもと、飛島ふ頭南側コンテナターミナルの整備等により一定の成果を上げてきましたが、次期政策体系においても、コンテナ機能の更なる強化の取り組みは継続していく必要があるため。
次期政策体系への展開(個別施策の構成、新規事業の創出、事務事業の見直し等)		
・基幹航路の維持拡充と貨物量の増加を図る対策を引き続き、運営者である飛島コンテナ埠頭(株)等と進めていく必要があります。 ・港湾計画の改訂において、新たな施設展開などのコンテナ取扱機能強化を目指します。		

3. CHECK(個別施策全体における取組状況と課題)

現政策体系における主な取組など	現政策体系における課題認識など
<ul style="list-style-type: none"> <li>・飛島ふ頭南側第2バース(TS1)が平成20年12月に供用開始しました。</li> <li>・平成23年から第2バースに引き続き、第1バース(TS2)においても自動搬送車(AGV)を導入した自動化ターミナルの運用が始まりました。</li> <li>・ターミナルオペレーターである飛島コンテナ埠頭(株)に対し、岸壁貸付及び荷さばき施設整備にかかる無利子貸付を執行しました。(平成24年度)</li> <li>・飛島ふ頭南側コンテナターミナルだけでなく、飛島ふ頭南側コンテナターミナルにおいても、超大型コンテナ船(13,000個積み)の寄航が想定されることから、国、港湾関係者と連携し、入出港における安全対策を取りまとめました。(平成25年度)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・飛島ふ頭南側コンテナターミナル第1バース(TS2)の未着工となっている岸壁整備については、関係者と調整を続けてきておりますが、未だ進展が図れていません。</li> <li>・成果指標である外貨コンテナ取扱個数の設定については、未整備である第3バースを除いた数値に再設定する必要があります。</li> <li>・第3バースを除いた目標値は70万TEUであり、この目標値においては7割程度の取扱量を維持できていることから、引き続き、貨物量の増加に向けた取り組みを進めていく必要があります。</li> <li>・成果指標である航路数については、目標の8割程度を維持できていることから、引き続き、維持拡充を進めていく必要があります。</li> </ul>
現政策体系における事務事業の適正性	
・事務事業の構成は妥当です。	